

四大戦 部便り

目次

1. 四大戦 講評

- 1.1 監督より
- 1.2 主将・女子主将より

2. 四大戦 試合経過

3. 選手の言葉

4. 試合結果

5. 自己記録更新者一覧

6. 2017年度部内五傑

7. 2017年度東大記録更新者一覧

8. 主務より

1. 四大戦 講評

1.1 監督より

監督・藤田靖浩

今年度の四大戦は男子は学芸大学に次いで総合2位、女子は4位。男子は取りこぼした種目も多く連覇も十分狙えただけに悔やまれる結果となりました。

個人の結果としては100mで一年聲高が10秒83で優勝、棒高跳の三宅が4m90で優勝し、次に挑戦した5m01も非常に惜しい跳躍、1500m、5000mで近藤が二冠、女子800mで高石が安定した2分13秒台など、一番手の選手はまずまずでしたが、二番手以下が伸び悩みました。

一方、今日の記録のままで七大で点が取れるまではいかないものの、短距離中心に自己ベストを更新した選手自体は多く、少しずつ全体の実力は上がってきています。

関東インカレ以降ほぼ2週間おきに対校戦というスケジュールでしたが、七大までは1ヶ月とまとまった練習期間がありますので、連覇に向けてしっかり練習を積み直していきたいと思います。

1.2 主将・女子主将より

主将・寶田雅治

今年の四大戦は7/1に大井で行われました。総合の結果は男子が2位、女子が4位でした。男子は優勝を目標に掲げていただけに、国公立に引き続いて学芸大に負けて2位という悔しい結果となってしまいました。

個々の種目で自己ベストを更新し、対校得点を獲得している部分が見られるものの、まだ全体として100%のパフォーマンスを出せているように感じる事ができない試合でした。ここから七大戦、京大戦と戦っていくなかで現状の戦力がすぐいきなり変わるということは陸上競技では望めません。特に七大戦まで残り一ヶ月の練習での成長幅には限度があり、今の東大が七大で優勝するためにはその成長に加えて全員が100%の力を出し切っていく必要があります。幸いなことにシーズン当初から比べると比較にならないくらいの力をつけた選手がみられ、ほぼ全員が大小はあれど、確実に記録を伸ばしてきている印象です。ここまで培ったものを大一番の七大戦でぶつけられるように部員一丸となって頑張ってください。

最後になりますが、OB・OGの皆様へ未だ勝利のご報告をすることができず、たいへん心苦しいですが、七大戦では優勝のご報告ができるように精進して参りますので今後ともご指導、ご鞭撻の程をよろしくお願いいたします。

女子主将・坪浦諒子

この度の四大戦は、女子は総合4位という結果に終わりました。昨年に引き続きこの順位となったことは残念に思いますが、来たる七大戦に向けてそれぞれの課題を把握出来たことは大きな収穫だと考えております。今回の四大戦を含め、春からの対校戦は人数の少なさから相手と互角に総合得点を競うことは正直なところ厳しかったです。しかし、似た境遇の相手と戦う七大戦は勝ちに行こうとすることが可能であり、総合優勝を女子パートの目標として掲げ取り組んでいます。手の届かないものではないと真剣に考え本気で優勝を目指していますが、実現するためには各選手がもう一段階実力を付けていくことが必要だとも考えています。残り一か月を切りました。最大限の努力を重ね、女子パート全員で総合優勝を勝ち取りにいけるように頑張ります。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

2. 四大戦 試合経過

◎トラック種目

9:30 男子 4×100mR 決勝

5レーンに井上(1年)・聲高(1年)・河野(4年)・竹井(D2)の走順で出場。時より降る雨、高い湿度の影響が懸念されたが、9時30分スタートの本大会トラック競技第1レースとして、また全カレ標準突破のかかったレースとして、順位、記録ともに期待が集まった。

スタートで出遅れた4レーンの学芸大と対照的に、1走の井上が順調な加速を見せ、アウトレーンながら明らかに差を開く。続く聲高も100m優勝の実力を見せつける走り、早々に6レーンの群大を抜き去った。学芸大との差は大きく変わらないまま、バトンが3走の河野に渡る。しかし、その差はカーブで急激につまり、学芸大とほぼ並んだ状態でバトンは4走の竹井に託された。ホームストレートでも徐々に学芸大との差が広がる苦しい

展開となり、41"43で2位という結果に終わった。

順位としては、1位の学芸大に0"35差をつけられての2位、記録も全カレ標準である40"55に遠く及ばず、悔しいレースとなった。七大戦や全カレ標準の突破に向け、さらなる進歩が急がれる。

9:50 男子 3000mSC 決勝

阿部(2年)、栗山(2年)の出場。阿部は脚の調子が心配されたが、昨年の四大戦で2位であり、栗山は今年度自己ベストを数回更新しているため、両者とも上位が期待された。

レースは大きな集団が形成されない形で始まった。阿部は2位争いをしながら、最初の1000mを3'08"で通過した。栗山はスタート直後から単独で4番手を走り、最初の1000mは3'16"であった。その後、阿部は2000m手前まで2位争いを繰り広げたが、そこから失速して3位へと後退した。栗山は単独走ながらもしっかりと自分のペースを刻み、徐々に阿部との差を縮めていった。2000mのラップは阿部が3'18"、栗山が3'16"であった。ここからは、阿部は2位の選手との差を広げられることとなるが、ラスト1000mを3'24"で走り、9'50"14の3位、栗山は前の阿部を追いかけ、ラスト1000mを3'18"で走り、9'50"93の4位となった。

結果はあまり良くはないものであった。阿部は脚の調子が悪く、練習がつめてなかったため、ハードリングが上手いかず、昨年より悪い結果となってしまった。栗山は自己ベストが出たものの、本人にとって満足いくレースとはならなかった。両者とも七大戦でリベンジしてくれることを期待したい。

10:10 男子 400m 決勝

3レーンに小嶋(3年)、6レーンに長久(4年)の出場。雨が降り、気温が高い中で行われたレースであった。小嶋は前回の国公立戦で自己ベスト、長久も今シーズン自己ベストを出しておりスタート前から順位と共に記録にも期待が寄せられた。

スタートから申請記録が上位の4レーンと5レーンの選手が積極的に飛ばす中、前半型の小嶋は懸命に食らいついていく。一方で、後半型の長久はバックストレートで早々に4レーンと5レーンの選手に抜かされてしまっ

た。そのままホームストレートに入り小嶋は前の二人に少々突き放されるが粘りを見せて49"92の自己ベストを記録し、3位でゴール。長久も最後の直線で驚異的な追い上げを見せ、一人をかわし小嶋に追い続けた。こちらでも自己ベストとなる50"28の4位でゴール。二人で合わせて7点を獲得し、後の種目への流れを作った。

雨が降り気温も高い難しいコンディションで行われたレースだったが2名とも自己ベストを更新し、実力を十分に発揮したレースであった。七大戦で小嶋は400mに、長久は200mにそれぞれ出場する。ここまで順調に記録を更新しているため、七大戦でも好記録と得点が期待される。

10:25 女子 400m 決勝

2レーンに高石(3年)の出場。朝から雨が降り、気温も湿度も高い悪条件下であり、中距離が専門で400mはこれが初めてである高石にとっては厳しいレースであったが、800mの実力者としてなんとか強豪選手達に食らいついていってほしいところであった。

力強いスタートで勢いよく飛び出すも、3~6レーンの強豪選手達に早くもバックストレートで差をつけられる。第3コーナー付近で1人を抜き、最後まで粘りを見せるが59"44で5着。

悔しい結果に終わったが、以降の対校戦で、専門種目である800mでの活躍に期待したい。

10:30 男子 1500m 決勝

妹背(4年)、近藤(3年)の出場。壮行会でも力強い言葉が聞かれ、朝早くの種目として後の競技に弾みをつける走りが期待される。

雨がぱらつく中でのスタートとなった。近藤が先頭を引っ張り、妹背がそこにつく形で400mを共に62"で通過。しかし700m過ぎで妹背が近藤の引っ張りについていけなくなり3番手に後退する。近藤は独走を続け800mまでの1周を63"、1200mまでの1周を64"で刻み、最後は5000mに向けて流す余裕も見せながら4'00"65の1位でゴールした。

一方妹背は1100m付近で4、5番手にも追いつかれたが、冷静に勝負に徹しラスト100mで切れ味抜群のスパートをみせ4'03"06の2位でゴール。800m、1200mま

での1周はそれぞれ64"、67"であった。

力強い言葉通り1-2フィニッシュを決め、見事11点を獲得し、大いに盛り上げてくれた。七大戦に向けて弾みがつくレースとなった。

10:50 女子 1500m 決勝

藤原(3年)、堀越(3年)の出場。早朝に降った雨の影響で走路は濡れていたが、気温は高くなく、比較的走りやすい天候であった。藤原にとっては本日出場する3種目(OPを含む)のうちの1レース目であり、良い結果を残して良い流れを作りたいところであった。堀越は総務の仕事の合間の出場であり、十分なウォーミングアップができない中でのレースであった。

藤原、堀越ともに落ち着いてスタートし、集団の後方につけた。400mの通過は、藤原は集団の真ん中まで順位を上げ、3番目の1'25、堀越は先頭集団から少し離されて全体の6番目の1'28であった。藤原はじりじりと集団の中での位置を上げてゆき、2周目に入るタイミングで一気にペースを上げて集団を飛び出し、独走態勢に入る。800mの通過は、藤原は先頭で2'50、堀越は少しペースを落として3'06であった。1200mの通過は、藤原は4'10、堀越は4'50であった。藤原はそのままペースを維持して徐々に後続との差をひろげていき、5'09"63の1位でゴール。堀越も最後に粘りを見せ、6'05"82の6位でゴールした。

藤原は落ち着いたレース運びで見事対校戦初優勝を果たした。堀越も総務の仕事の中、力を出し切った。記録としては二人とも自己記録には及ばないが、今後も実力を伸ばして活躍することを期待したい。

11:45 男子 5000mW 決勝

堀江(3年)と千菊(1年)の出場。学大2名、東大2名、群大1名の合計5名の出場で東大は記録上では3.4番手。堀江は学大にチャレンジするレース、千菊は群大に勝ち切るレースが期待された。日差しはないが、朝からジメジメしていて嫌なコンディション。

スタートすると学大の選手が1人飛び出したが、堀江は学大のOPを含めた2名の選手についていき2位集団を形成する。1000mの通過は4'14と速すぎない入り。1400ほどで飛び出した選手が集団に吸収され4人の集

団になる。そのまま3000まで4'20-4'21と4人でレースは進む。3000を過ぎてから集団がペースアップし離されてしまう。ペースが少し落ち、前と少しずつ離されそのまま21'56"98の3着でゴール。

千菊はスタートから群大の選手とOPの櫻井と集団を形成し、それを引っ張る形。4'29で1000を通過しその後4'38-4'34と少し相手をゆさぶる。3000過ぎてから少しきつくなったのか後ろに回り、離れかけては追いつく周が続く。ラスト500からスパートをかけ、群大の選手を引き離して22'51"42の4着でゴール。

2人とも下馬評通りの順位だが堀江は積極的なレース、千菊は中盤苦しみながら最後に勝ち切るレースだったので最低限の仕事はできた。しかし、来年の関東インカレで戦う学芸大学との力の差が出た試合だった。今後の彼らのさらなる成長に期待したい。

12:15 男子 100m 決勝

4レーンに聲高(1年)、8レーンに井上(1年)の出場。朝から断続的に降っていた雨はやんでいるものの依然として蒸し暑く、風がほとんど吹いていない状況でのレースとなった。

聲高は出場選手の中でも実力が頭一つ抜けていると思われる優勝が期待された。苦手とするスタートで周りの選手に先行されるも、固くならず落ち着いた走りでごんごん加速し、80m付近でトップに立ちそのまま1位でフィニッシュした。タイムは10"83であった。4×100mRに続き本日2本目のレースで足の状態は思わしくなかったようだが、それを感じさせない走りであった。

井上は、調子の良さが最近の練習の様子からも分かるほどで、1点でも多くの得点の獲得を目指した。得意のスタートで飛び出すとそのまま加速、後半もスピードを維持し、接戦のままフィニッシュした。初の個人種目での対校出場であったが、堂々とした走り、結果は11"05の4位であった。このときの風は+0.4mであった。

良いとは言えないコンディションの中で両選手とも大学ベストを更新し、あわせて9点を獲得し期待に応えた。今後の両選手のさらなる活躍に期待したい。

13:05 男子 400mH 決勝

1レーンに松田(2年)、8レーンに寶田(4年)の出場。

小雨が降る中でのレースであった。

試合は終始東学大と埼玉大の二人の選手が引っ張っていく展開。松田は1台目の入りが遅れたが、バックストレートに入るとスピードに乗り、先行する選手と距離を詰める。しかし7台目、歩数を切り替えたところで失速し、そのまま56"58の7位でゴール。一方寶田は、1台目のハードリングで体が少し浮いてしまったがその後は立て直してレースを進めた。しかし6台目で抜き足を引っ掛けてしまい、その後の歩数の切り替えもスムーズにいかず、56"65の8位でゴールした。

今回、この種目で得点を取ることはできなかったが、松田は大学ベスト、寶田は自己ベストを更新した。歩数の切り替えや後半の失速などの課題が改善されれば、七大戦ではさらなる記録の更新が期待できるだろう。

13:35 男子 800m 決勝

3レーンに坂口(3年)、5レーンに小野(2年)の出場。朝に降っていた雨も止み、気温も高くなく、良好な天候であった。両選手とも実力は十分であり、1位、2位独占が期待された。

スタート後、埼玉大の選手が飛び出す、小野、坂口ともに落ち着いて2,3番手を位置取る。350m付近でペースが落ちてきた埼玉大の選手を追い越すが、直後に群大の選手が先頭に立ち、400mは小野、坂口の順に2,3番手で通過する。通過タイムは小野が58"3、坂口が58"5。550m手前付近で小野が群馬大の選手を追い越し、坂口もそれに続く。ここで坂口がさらにペースアップし、600m手前付近で先頭に立つ。坂口は600m~700mのコーナーで少しペースを緩めた。小野がスパートをかけて700m付近で並んだところで坂口もスパートをかけた。坂口は先頭を守りきり、1'56"19の1位でゴール。最後にもう一人の埼玉大の選手が追い上げてきたが、小野も坂口に続いて1'57"13の2位でゴールした。

坂口、小野ともに十分に実力を発揮し、申し分のない結果となった。坂口は国公立戦の頃の不調から回復してきているようである。小野は坂口に負けはしたが、東大チームとして十分に実力を発揮してくれた。両選手ともに、今後さらに実力を伸ばし、活躍することを期待したい。

14:00 女子 800m 決勝

2レーンに荒木(3年)、4レーンに高石(3年)の出場。朝から降っていた雨もほぼ上がり日差しは弱いものの、湿度が高くじめじめとしたコンディションでのレースとなった。

関東インカレ 800m3位のト部(東学大)がとばし、ブレイクの時点で既に縦に大きく広がった。高石は2番手、荒木は5番手につけて400mを高石が62"8、荒木が75"1で通過する。高石は大会記録ペースで走るト部の背中を20mほどの差で追うが、600m過ぎからさらに差を広げられ2'13"89の2位でゴール。荒木は4番手を追うも差は縮まらず2'39"17の5位でゴールし、東大としては5点を獲得した。

七大戦に向けて課題が残る結果ともなったが、1か月弱で実力を磨き高得点を目指してほしい。

14:10 男子 200m 決勝

対校男子 200m は1組のタイムレース決勝で行われ、5レーンに河野(4年)、8レーンに阿久津(2年)が出場した。当日は雨が降ったり止んだりする不安定な天候で湿度も高く、コンディションは良くなかった。

号砲とともにスタート。河野は、前半100mでスピードに乗り切ることができず、4レーンの選手に捉えられてしまい100m通過時点で5番手となったが、後半は4×100mRに出場していた疲れを感じさせない、姿勢の崩れない伸びのある走りを見せ、22"05の3着でゴール。阿久津は、良いスタートを切ったが50~100mで他の選手に遅れをとってしまう。しかし、ホームストレートでは力強い走りを見せて7レーンの選手に競り勝ち、22"48の7着でゴール。風は+1.5mであった。

河野はベスト21"61から程遠い記録となってしまったが、七大戦での自己ベスト更新に期待したい。一方、阿久津は7着に終わったものの8ヶ月ぶりの200mレースであった国公立戦からさらに記録を伸ばしており、今後へ向けて好材料となった。

14:45 男子 5000m 決勝

雨も止んで気温もそこまで上がらず、湿度が高いということ以外は絶好のコンディションであり、二人とも好記録が期待されるレースとなった。

スタート直後で近藤が飛び出し、ついてきた埼玉大の選手と二人でまとまった。一方、松本は3位を二人で争う形で並走し、ペース一定のまま1km地点で、近藤が2'53、松本が3'04、1kmから2kmはそれぞれ2'56、3'04と刻んだ。ここで近藤についていた埼玉大の選手が遅れを取り始めた。近藤はこの1kmを2'55で走りさ50mにまで広げた。この後は独走を続けるもののペースは少し落ちはじめて3kmから4kmが3'02であった。この区間を二人並走し続けた松本は少しずつペースを落としながらも2kmから3kmを3'06、3kmから4kmを3'09でまとめた。近藤はそのまま最後の1kmを走りきり最後の1kmを2'55でゴール。一方松本は並走していた選手がラスト1km2'53でスパートをかけ、残り11周までかなりハイペースの争いを繰り広げたが最後の1周でさらにペースを上げた相手に離され、4位でゴールした。

結果としては、近藤が14'39"67で1位、松本が15'14"62の4位であった。近藤は課題があるとしながらも七大戦に向けての手応えを感じる試合となった。松本は記録的には良かったもののやはり最後に競り負けたこともあり、本人にとって悔しさの残るレースとなった。

15:15 女子 3000m 決勝

藤原(3年)の出場。雨上がりの競技場は7月にしては涼しく、長距離種目には好条件であった。しかし藤原はこの日1500mに続く2本目のレースであり、藤原にとっては過酷な試合となることが予想される。疲労の中でどこまで粘りの走りができるかが高得点獲得の鍵となる。

スタート直後から群馬大学の選手が飛び出し、藤原は2位集団の後方に位置づける。落ち着いたペースでレースを進め、そのままの位置で1000mを全体4位で3'36"で通過。1100mあたりで2位集団が1位の選手に追いつき、その後は先頭集団を形成してレースが展開する。藤原は変わらず4位につけていたが、1800m通過あたりから走りが苦しくなる。必死に食らいつくも2000mを7'16"で通過したのち集団から離れてしまい、その後は急激にペースが落ちてしまう。粘りの走りをする事ができず、先頭とは150mほどの差をつけられて11'17"05の4位でフィニッシュした。

疲労の中での苦しいレースとなったが、男子の近藤(3年)のように2種目での優勝を果たしている選手もいる。

絶対的な力をつけることを目指し、七大戦そして秋以降の対校戦に向けて、夏の練習を積んでいってほしい。

16:00 男子4×400mR 決勝

4レーンに関東インカレと同じメンバー・走順となる小嶋(3年)・河野(4年)・松田(2年)・長久(4年)の走順で出場。小嶋と長久は午前中の男子対校400mで自己ベスト、松田は午後の男子対校400mHで大学ベストをそれぞれ更新しており、好調がうかがわれる。4×400mRでは、群馬大・学芸大は強力ではあるものの、うまくレースの流れに乗れば、関東インカレで出した3'19"22以上のタイムも期待される。

小嶋は得意の前半で一つ外側の学芸大に食らいついていく。300mまでは1つ内側の群馬大も合わせ3チームがほぼ互角。ラストの直線で少し離され3番手でバトンパス。河野は冷静に自分のペースで3番手を維持しながら前半200mを通過。ラスト150mあたりから猛追を見せる。2番手の群馬大にほぼ並び、先頭の学芸大との距離も縮めて3走松田につなぐ。松田は前半から積極的にとばすも徐々に前の2チームとの距離が広がってしまう。それでも懸命に粘るがラストで埼玉大にかわされ、4番手でバトンはアンカー長久に渡る。長久はスタート直後走り終わった学芸大の3走の選手と交錯しそうになるトラブルがあったものの、必死に前の埼玉大を追っていく。しかし、疲労もあったのだろうか、徐々に埼玉大とも距離を広げられてしまい、3'21"14で4位でのフィニッシュとなった。

今シーズンで関東インカレに次ぐ2番目のタイムではあったが、個人の持ちタイムからするとまだタイムを伸ばす余地はある。個人の強化とチーム内での競争が求められる。

◎フィールド種目

9:30 男子走幅跳 決勝

6番に栗原(1年)、8番に藤原(2年)が出場。スプリントの強化に手応えを感じ始めている藤原、今季開幕から好調維持の栗原、両選手には揃っての上位入賞が期待された。天気がぐずついた今週末、試合当日も朝からはっきりしない天気。9:30開始の本種目では雨が一時的に止ん

だが、90%近くにまで湿度が上昇し蒸し暑い気候であった。

栗原は1本目は少し失敗し、記録を残すも6m36。本人も納得のいかない模様。2本目で6m75を跳ぶ。この時追い風0.2mであり公認での今季最高をマークした。3本目はファール。藤原は1本目はファール。2本目、3本目も記録こそ残したものの助走がうまく合わず本領を發揮できない。3回目まで終了の時点で栗原が2位、藤原が7位でベスト8へ進む。栗原は4本目、5本目と失敗跳躍が続いたが、6本目に記録を1cm伸ばして6m76。藤原4本目も踏切直前で足がまごつき失敗。迎えた5本目ようやく助走が綺麗にはまり6m80前後の大跳躍を見せるが惜しくもファール。背水の陣となった6本目は得点を確実に取るため勝負には出ず、6m57の記録を残した。結果栗原3位藤原4位であった。

高温多湿に加え早い時間帯でコンディションは良くなかったとはいえ、両選手ともに自身の持つ力を存分に發揮できず消化不良に終わったことは、試合後の表情にもよく表れていた。一ヶ月後に迫った七大戦に向けて質の高い課題を収穫できた試合となった。

10:00 男子ハンマー投 決勝

ハンマー投には鍵本(M1)加藤(4年)の出場。朝から雨が降ったり止んだりの天候で、トラックほどではないがベストコンディションではなかった。そんな中でも特に鍵本は優勝が期待され、高得点でチームに勢いを与えることが期待された。

加藤は1投目から良いフォームで投げ、2投目に自己ベストとなる27m60を記録した。鍵本は1投目から40mを越す記録を出し、優勝を狙える位置につける。3回の試技を終え、加藤が27m60で5位、鍵本が1投目で記録した40m35で2位となり、残り3回の試技に臨むことになった。4投目以降では全体的にファールが多くなり、ネットにハンマーが絡まり長い中断が入った。そんな中でも加藤は集中を途切らすことなくファールになることもなく3投目に出した自己ベストに迫る投擲をする。鍵本も優勝を狙い記録を伸ばそうとハンマーを投げるが、1投目を超える記録は出なかった。

最終的に鍵本は40m35で2位、加藤は27m60で5位となり、加藤は自己ベスト更新という結果で終わった今

大会。加藤は調子が良さそうで、このまま自己ベストを更新し続けることが期待される。鍵本は圧巻の投擲であり、院生になっても高い水準を維持していることを見せつけた。

10:30 男子棒高跳 決勝

寶田(4年)、三宅(2年)の出場。雨が多少降っており、練習試技までの間に十分な練習をすることができず、足合わせが不十分な状態であった。しかし試合開始時には雨も上がり、風も非常に弱く涼しいコンディションとなった。

寶田は3m20から競技開始。1本目では15フィートのポールを上手く立てられずに落としてしまうが、ポールを変え、2本目では成功。続く3m40は1本目でクリア。しかし3m60では、助走の間延びが原因となり、思うようにポールを立てることができずに競技を終了した。

3m40の五位だった。今後は跳躍技術だけでなく、助走の安定も並行して練習する必要がある。

三宅は4m50から開始。50、60、80と1本目でクリアし、その時点で優勝が確定した。途中、4m80では跳躍中に「あつぶねえ」という言葉が漏れるなど、アップライトが僅かにずれた跳躍もあった。その後は90も2本目で成功させ、5m01に挑戦。2本目には非常に惜しい跳躍があったが、力みなどもありこの高さを失敗。

4m90の一位で競技を終えた。

各々が自身の課題を自覚しており、七大戦までの一月でさらなる成長が見込まれる。

11:00 男子砲丸投 決勝

対校男子砲丸投には、加藤(4年)と佐竹(3年)の出場。予報と裏腹に雨は止んでいて気温も低くなかったのでコンディションとしては悪くなかった。埼玉大と学芸大の選手相手には苦戦が予想されていた。

国公立戦で11m21と大きくベストを更新した、好調な加藤の1投目は様子を伺い9m84の投擲。一方最近調子が上がらない佐竹は1投目控えめな投擲になってしまい9m66と低調な出だし。1投目時点で12m超えが3人と厳しい展開に。加藤は2投目ファールしたものの3投目10m39と少し記録を伸ばす。記録を伸ばしたい佐竹は2投目、3投目と手からこぼれたり砲丸が肘より下に落ち

てしまったりと記録を伸ばせない。思い切りの足りない佐竹は4投目から切り替えていきたいが、調子があがらず4、5、6投目でも悪い流れを変えられず、9m66のまま競技を終えてしまった。この日ハンマー投に続いて2種目の加藤は4投目をパスして5投目に10m90の投擲を見せ、これがこの日に記録となった。

加藤は自己ベストに近い投擲をしたものの5位、佐竹は6位と厳しい結果に。七大戦では3投目までに11m程度の投擲が要求されると思われるので、好調な加藤はこのままの勢いで、佐竹もなんとか調子を上げて戦ってみたい。

12:00 男子走高跳 決勝

1番に赤塚(2年)の出場。4番の木下(3年)は足の怪我の悪化によりやむなく棄権となった。雨が降っていた午前中とは打って変わって雨は上がったものの、気温は午前中に引き続きあまり高くない中での試合となった。開始前から強い向かい風が吹き続けており、結果を出すには少し厳しいかと思われた。

赤塚は1m80からのスタート。1本目の跳躍は失敗だったものの、2本目はスムーズに成功。続いて1m85。強い向かい風が吹いていたにも関わらず1回目で難なく成功する。続いて1m90。これを成功すれば自己ベストタイとなる高さであったが、3本とも向かい風に煽られ失敗。残念ながらここで試合を終える。

今回は全体的にあまりコンディションが良くなかったものの、自己ベストに迫る記録で3点を獲得した。先の国公立戦では自己ベストも更新しており、七大戦への弾みがつくような試合となった。

12:30 男子やり投 決勝

やり投には八木澤(3年)、中村(1年)の出場。砲丸投の進行の遅れにより、10~20分ほど遅れての競技開始となった。午後になって雨が止み路面も乾き始めていたため、悪くないコンディションと言えた。5名の出場で、八木澤は上位に食い込むことが期待された。

八木澤の1投目。やや槍先が上を向き、力のない投擲となってしまう。記録は45m38。2投目も同じような投擲となり、自らファールとした。3投目には投げの修正をはかるために短助走での投擲を行い、記録は42m70。

4投目もやや槍が上を向いて45m12。本人がピークを合わせると語っていた5投目は、スムーズな助走から理想的な角度で槍が投げ出され、49m22の自己ベストを記録した。6投目は46m56。49m22、全体2位で競技を終えた。

中村の1投目。課題の助走をスムーズにこなし、大学に入ってからでのベスト記録となる43m46を記録した。2、3、4投目は助走がうまくまとまらず、それぞれ35m99、40m94、37m55であった。5投目はラインを踏んでしまいファール。6投目は1投目に匹敵するよい投擲であったがラインを踏んでしまいこれもファールとなった。43m46、全体4位で競技を終えた。

両名とも国公立戦よりもよい結果を残しており、七大戦へ向け収穫となる試合であった。

14:30 男子三段跳 決勝

平木(3年)、毛利(3年)の出場。雨が降り出しそうな曇り空だが、弱めの追い風と涼しい気候で、午前中の雨天試合よりも臨みやすい環境となった。一番手である木下が国公立戦での怪我で離脱している中、残りの戦力がどれだけの力をつけているか。七大戦に向けた吉兆を占う試合でもあった。

1本目では平木は実測13m後半ほどのファール、毛利は13m10と記録を残す。続く2本の跳躍の中で平木は13m83を記録するが、毛利はどちらもファールとなり、この時点で平木は13m83の四位、毛利は13m10の七位でベストエイトに入る。しかしその後の3本の跳躍では、平木は4本目で自己ベストを越すほどの跳躍を見せるも、僅かにファールとなり、残りの2本もファールとなる。他方の毛利は、助走の乱れもあるのか、つぶれた跳躍が多く、記録を伸ばすことはできなかった。結果としては、平木が13m83の四位、毛利が13m10の八位で競技を終了した。

両者ともにまとまっていない跳躍が多く、不本意な結果であったと言えるだろう。しかし、七月末の七大戦にあたり、木下を除いた残り二人の選手がどれだけの記録を出せるかが鍵となることが予想される。試合が続いたこの一ヶ月とは違い、これから一ヶ月はじっくりと練習に取り組める期間となる。細かい技術に加え、もう一度

走りや全体の流れを磨き、七大戦での大記録に期待したい。

14:30 女子三段跳 決勝

内山(2年)の出場。雨が降り出しそうな曇り空だが、弱めの追い風と涼しい気候で、午前中の雨天試合よりも臨みやすい環境となった。今大会、内山はOPである走幅跳には出場せず、対校である三段跳のみへの出場。最近の内山は三段跳の練習にも力を入れており、走幅跳に次ぐ第2種目として期待がかかる。

1本目はファールとなったが、2本目にはベストに迫る11m43を跳ぶ。3本終了段階、11m43の三位でベストエイトに進むが、その後は38、34、33と記録を伸ばすことはできなかった。11m43の三位で競技を終えた。

いずれの跳躍もバランスの取れた跳躍でありまた、コンスタントに記録をまとめることができている。しかし同様に、いずれの跳躍も全体的に動きが小さく、まだまだ成長の余地が見える。練習時間を考えれば、短期間での急成長も十分期待される。また、内山にはやはり走幅跳での成長も期待される。三段跳の練習による走幅跳への相乗効果がこれからの対校戦で発揮されることを祈っている。

14:30 男子円盤投 決勝

対校男子円盤投げには土井(4年)、山之内(4年)が出場した。

山之内の1投目はターンをせずに記録を残しにいった結果、記録は29m57であった。土井の1投目はターンが途中で減速してしまい29m95にとどまった。山之内の2投目、3投目、4投目は円盤が右に逸れてしまいファウルとなった。土井はこの後も、ターンに勢いを欠き2投目28m90、3投目30m06、4投目30m02、5投目ファウル、6投目29m56の記録30m06で競技を終了した。

山之内は5投目、ファウルを意識しすぎたのか、フォームが小さくなり27m28にとどまった。6投目は思いきり投げるも、またも円盤が右に逸れファウルとなり、記録29m57で競技を終了した。ターンした結果立ち投げを上手く活かせていない投擲が目立ったので、七大戦までになんとか修正してもらいたい。

3. 選手の言葉

短距離1年 聲高健吾 (100m,4×100mR)

男子対校100mに出場させていただききました、聲高健吾です。

2週間前の国公立戦では予選は通過したものの決勝の直前にふくらはぎをつって棄権してしまったため、最大限の足のケアをして臨みました。目標は最低限優勝、調子がよければ関カレのA標準切りとしていました。

今回の大会は100mのレースの前に400mリレーがあったため大学初の2本目のレースであり足がつかないか心配でした。リレーの後にも入念にケアをしましたが、流しの最中につるまでではないもののふくらはぎに違和感を感じたため、5割程度の流しを数本して召集所に向かいました。この時点でタイムを狙うのは諦めて、とりあえず優勝しようと思いました。スタートを頑張るとふくらはぎがつりそうだったので後半力まずに行って最後で抜かすというレースプランでした。

実際のレースもプラン通りだったと思います。50m付近で1位は取れたと思いきよここからは雑になってしまいました。タイムは平凡でしたが優勝して最低限の仕事はできたと思います。

今後の課題としては1日に複数本走れる体力をつけることです。練習を再開して4ヶ月が経とうとしています。トップスピードは高3の時と同じくらいにまで戻すことができました。この日もリレーはかなり走ることができタイムも期待していたのでとても残念な結果でした。

七大戦は決勝に行くと3本走らなければいけないので、残された時間を大事にして3本きっちり走れる状態に持っていきたいと思います。

短距離4年 長久将 (400m,4×400mR)

対校戦での400mは六大戦以来で、その時の惨敗の悪いイメージを払拭するためにも気合を入れて挑みました。今シーズンから挑戦することになった400mですが、何本か走ったことでようやくある程度走り方がつかめてきたので。6位以内に入って得点を取ることを最低限の目標としました。結果的にはベストを1秒弱更新してなんと

か4位に入ることができたので自分の実力からすると満足のいく出来でした。ただ後輩の小嶋に負けてしまったことや、あと少しで49秒台に入れなかったことは悔しいのでまた練習を積んでいきます。

一方マイルでは不甲斐ない走りをして他のメンバーに迷惑をかけてしまい、応援してくれていた他の部員達にも大変申し訳なく思っています。1日に複数本こなす体力がなかったこともそうですが、400mでそこそこのタイムを出して気持ちが少し緩んでしまったことも原因なのでもう1度気持ちを引き締めて頑張ります。対校戦での借りは対校戦で返すしかありません。そのために七大戦・京大戦に向けて実力を高めていきたいので、今後ともご指導・ご声援の程宜しくお願い致します。

中距離3年 坂口諒 (800m)

四大戦対校800mに出場しました中距離3年の坂口です。

関東インカレ以降、練習では走れていてもレースでしっかり走れないことが続いていました。しかし、四大戦の前週に神奈川県選があり、予選で六大戦以来の1'55を出したことで自信を取り戻すことができました。

今回のレースでは、スパートするタイミングが上手いき、対校で初めて優勝することができたのでとても嬉しかったです。また、下馬評通りではありますが、2年連続で中距離種目1位2位を独占できたのもよかったです。

最近、1周目がスローになるレースでは上手く走れることが増えてきました。58"~59"で入っても1'55~56くらいを出せる力はついてきたので、ハイペースな展開になってもラストまで勝負できるように練習に励んでいこうと思います。

次の目標は七大戦での得点です。他大学のレベルが高く、決勝進出も簡単ではありませんが、東大中距離の強さを見せられるように頑張ります。

中距離3年 藤原ゆか (1500m,3000m)

今回1500mと3000mに出場させていただきました。

1月から4月まで怪我や貧血で苦しんだ所もあり、思い通りにいかないシーズンとなっていました。6月3日

の日体長で出場した 1500mでスピードが足りていないことを実感し、国公立戦の 3000mでは自分の LT の低下を実感しました。しかし国公立戦から四大戦の一週間の練習で体の動きが故障前に少し近づき、スピードが上がっていることを感じました。

四大戦当日、1500m は非常にスローなペースで入り、ラスト勝負になることが分かりました。昨年の一橋戦で、スパートをかけるのが遅く、敗戦した反省もあり今回は残り 800mから集団を飛び出しスパートをかけました。この判断が勝負を決めたと確信しています。目標としていたベスト更新とはなりませんでしたが、それでも1位をとったのは初めての経験であり、苦しいシーズンの中の光となりました。

3000mでは 1500mでの疲れが響いてしまいました。2000mまでは集団についていきましたが、足が思うように動かず、2000m以降は苦しい走りとなりました。夏の目標にしている七大戦で勝負をするには 10'30 を切るが必要になってきます。そのために何が必要でしょうか。今自分が考えているのが①3000mを走るそもそものペースを高めるような練習 ②2000m 以降の後半の走りを意識した練習です。具体的には①ペース走、インターバル ②4000mほどのレペ を考えています。七大戦で良い結果を報告できるように精進致します。

長距離 2年 栗山一輝 (3000mSC)

3000mSCは今シーズンから本格的に取り組み始め、ようやくレースにも慣れてきて七大戦に向けた前哨戦のような意識でこの四大戦に臨みました。

結局、レースとしては終始1人で走り続けて下馬評通りの4位でフィニッシュという、良く言えば無難、悪く言えば積極性に欠けるものとなりました。七大戦での勝負の基準となりそうな9'40"前後のタイムを狙っていたため守りに徹しすぎたレース展開には反省すべき点もありますが、対校選手として初めての得点ができたというのは1つの収穫でした。

また、ハードリングや水濠の練習は普段なかなかできないのでレースが質の高い練習になるのですが、今回は特にレースを通して良い感覚を掴むことができました。

今年は例年に比べて七大学の 3000mSC のレベルが高

くないということで、少しでも高得点を狙ってさらに練習を積んでいこうと思います。

投擲 3年 八木澤光大 (やり投)

四大戦やり投げに出場しました、投擲 3年の八木澤です。

七大戦に一番のピークを持って行きたかったのですが四大戦は正直なところそんなに合わせておらず、直前の木曜日までがつつり練習していたのですが、当日の1週間前の練習での投げでかなり調子が良かったので記録を狙って試合に臨みました。

当日朝は雨が降っていましたがお昼頃には止み、気温もそこまで高くなかったのが比較的良いコンディションだったのではないかと思います。なので試合直前になってより一層気合が入りました。練習投擲の感じも悪くなくこれなら目標としている記録を狙えるかもしれないなと思いました。

しかし本番の試技に入ると練習でのやりの飛び方を再現できず、やりがかなり浮いてしまい、記録は全く伸びませんでした。幸いにも四大戦は人数が8人以下だったので4投目以降も試技することができました。

3,4投目で落ち着いて助走のスピードを落としたりリラックスして投げ、5投目に本気で再び投げたところ、なんとかギリギリベストである 49m22 という記録が残せましたが、6投目では伸ばすことができませんでした。

目標としていた記録には到底及ばず、天気コンディションが良かっただけに非常に悔しかったです。

七大では3投目までにこの日+3~4m程度の記録を投げないとトップ8に残れないので、これから七大まで練習を積み、8に残り、必ず得点してくるので応援のほどよろしく願いいたします。

4. 試合結果

第42回国立四大学対校陸上競技大会

男子 100m 決勝 (+0.4)

1	聲高 健吾	東京大	10"83
2	増田 健吾	東学大	10"90 着差あり
3	澤田 悠貴	群馬大	10"90 着差あり
4	井上 昂	東京大	11"05
5	服部 翼	埼玉大	11"10
6	中村 亮太	群馬大	11"19
7	中野 紘史郎	東学大	11"38
8	小櫃 伸介	埼玉大	11"49

男子 200m 決勝(+2.4)

1	山田 寛大	東学大	21"65
2	澤田 悠貴	群馬大	21"80
3	河野 太郎	東京大	22"05
4	増田 健吾	東学大	22"16
5	北爪 啓太	群馬大	22"33
6	島崎 清弥	埼玉大	22"35
7	阿久津 大貴	東京大	22"48
8	藤島 翼	埼玉大	22"73

男子 400m 決勝

1	渡部 祐喜	埼玉大	49"09
2	杉山 雅俊	東学大	49"17
3	小嶋 健太郎	東京大	49"92
4	長久 将	東京大	50"28
5	吉沢 智貴	東学大	50"69
6	笠見 幸大	群馬大	51"71
7	中村 亮太	群馬大	52"71
8	塚田 健太	埼玉大	53"11

男子 800m 決勝

1	坂口 諒	東京大	1'56"19
2	小野 康介	東京大	1'57"13
3	林 伸幸	埼玉大	1'57"45
4	山根 丈幸	群馬大	1'58"08
5	見澤 卓	東学大	1'58"76

6	白土 航大	東学大	2'00"63
7	石塚 紳	埼玉大	2'03"03
8	穂本 悠貴	群馬大	2'03"44

男子 1500m

決勝

1	近藤 秀一	東京大	4'00"65
2	妹背 雄太	東京大	4'03"06
3	中島 福尚	東学大	4'03"29
4	山口 希望	東学大	4'04"15
5	秋元 皓志	埼玉大	4'04"70
6	山根 丈幸	群馬大	4'05"94
7	斉藤 直岐	埼玉大	4'14"87
8	穂本 悠貴	群馬大	4'20"37

男子 5000m 決勝

1	近藤 秀一	東京大	14'39"87
2	山田 幸輝	埼玉大	4'50"47
3	小野寺 涼	埼玉大	15'10"21
4	松本 啓岐	東京大	15'14"62
5	入野 翔太	東学大	15'57"00
6	長野 朋宏	東学大	16'29"38
7	久慈 清太朗	群馬大	17'04"06
8	清水 諒	群馬大	17'06"83

男子 110mH 決勝(-1.2)

1	佐々木 嵩	東学大	14"89
2	前三盛 喬貴	東学大	15"02
3	渡部 祐喜	埼玉大	15"77
4	松尾 祐哉	群馬大	15"84
5	本間 颯	埼玉大	16"11
	村井 輝	東京大	DNS
	須藤 健	群馬大	DNS
	中尾 幸志郎	東京大	DNS

男子 400mH 決勝

1	鈴木 夢人	群馬大	51"05
2	吉田 京平	東学大	51"66
3	須藤 健	群馬大	54"21
4	本間 颯	埼玉大	55"13

5	渡部 祐喜	埼玉大	55"29
6	江頭 佑紀	東学大	55"55
7	松田 光陽	東京大	56"58
8	寶田 雅治	東京大	56"65

男子 3000mSC 決勝

1	林田 祥志	埼玉大	9'29"62
2	入野 翔太	東学大	9'34"89
3	阿部 飛雄馬	東京大	9'50"14
4	栗山 一輝	東京大	9'50"93
5	長谷川 季樹	埼玉大	10'04"31
6	久慈 清太朗	群馬大	10'14"06
7	長野 朋宏	東学大	10'14"43
8	清水 諒	群馬大	10'39"61

男子 5000mW 決勝

1	青山 福泉	東学大	21'17"63
2	上田 俊希	東学大	21'25"86
3	堀江 駿	東京大	21'56"98
4	千菊 智也	東京大	22'51"42
5	田村 友希	群馬大	22'55"53

男子 4×100mR 決勝

1	東学大	古川—増田—山田—長谷川	41"08
2	東京大	井上—聲高—河野—竹井	41"43
3	群馬大	中村—惣野—鈴木—澤田	41"96
4	埼玉大	藤島—島崎—小櫃—服部	42"03

男子 4×400mR タイムレース 決勝

1	群馬大	須藤—澤田—北爪—鈴木	3'13"95
2	東学大	杉山—吉田—吉沢—本橋	3'14"38
3	埼玉大	藤島—服部—島崎—渡部	3'17"62
4	東京大	小嶋—河野—松田—長久	3'21"14

男子 走幅跳 決勝

1	荒谷 亘彦	東学大	6m90(+0.7)
2	丸橋 祐希	群馬大	6m83(-0.5)
3	栗原 怜也	東京大	6m76(-0.3)
4	藤原 暉	東京大	6m57(-1.3)
5	高橋 雄哉	東学大	6m46(-1.7)

6	筆脇 智宏	埼玉大	6m38(+0)
7	島崎 清弥	埼玉大	6m23(-0.1)
8	波多野 光一	群馬大	6m17(-1.7)

男子 走高跳 決勝

1	小林 秀輔	埼玉大	2m01
2	佐藤 日彦	群馬大	1m95
3	宮坂 駿吾	東学大	1m85
4	赤塚 智弥	東京大	1m85
5	松田 一輝	東学大	1m85
6	和知 悟志	埼玉大	1m85

男子 棒高跳 決勝

1	三宅 功朔	東京大	4m90
2	加賀見 一輝	東学大	4m60
3	荒谷 亘彦	東学大	4m50
4	石塚 紳	埼玉大	3m40
5	寶田 雅治	東京大	3m40
	久保田 友太郎	埼玉大	NM

男子 三段跳 決勝

1	丸橋 祐希	群馬大	14m83(+1.0)
2	窪田 章吾	東学大	14m69(-0.4)
3	小林 秀輔	埼玉大	14m16(-0.1)
4	平木 基人	東京大	13m83(+1.5)
5	筆脇 智宏	埼玉大	13m78(+0.8)
6	長田 直樹	東学大	13m59(+1.2)
7	波多野 光一	群馬大	13m39(+1.1)
8	毛利 冬悟	東京大	13m10(+0.5)

男子 砲丸投 決勝

1	今 祐太	埼玉大	15m04
2	栗本 恭宏	東学大	13m74
3	矢口 幸平	埼玉大	13m09
4	斉藤 真	東学大	11m86
5	加藤 輝仁	東京大	10m90
6	佐竹 俊哉	東京大	9m66
7	飯塚 紀貴	群馬大	9m17
8	清水 大夢	群馬大	8m79

男子 円盤投 決勝

1	矢口 幸平	埼玉大	42m93
2	今 祐太	埼玉大	38m55
3	北脇 恭介	東学大	31m94
4	落合 健太	東学大	31m47
5	土井 雅人	東京大	30m06
6	山之内 良太	東京大	29m57
7	清水 大夢	群馬大	23m44
	富田 巧哉	東学大	DNS

男子ハンマー投 決勝

1	今 祐太	埼玉大	40m87
2	鍵本 直人	東京大	40m35
3	矢口 幸平	埼玉大	37m87
4	桶川 雅毅	東学大	31m18
5	加藤 輝仁	東京大	27m60
6	落合 健太	群馬大	26m40
7	齊藤 真	東学大	15m75

男子 やり投 決勝

1	桶川 雅毅	東学大	49m52
2	八木澤 光大	東京大	49m22
3	前川 紘佑	東学大	48m56
4	中村 優太	東京大	43m46
5	清水 大夢	群馬大	26m14

総合得点

1位	東京学芸大学	127点
2位	東京大学	108点
3位	埼玉大学	94点
4位	群馬大学	61点

女子 100m 決勝

1	利藤 野乃花	東学大	12"35
2	澤田 イレーネ	東学大	12"42
3	野口 千慧	埼玉大	12"69
4	國安 花菜子	群馬大	13"96
	田邊 瞳	群馬大	DNS
	小峰 紫緒里	埼玉大	DNS

女子 200m 決勝

1	中村 優希	埼玉大	24"83
2	利藤 野乃花	東学大	25"46
3	鬼塚 玲寧	埼玉大	25"96
4	鹿沼 真鈴	群馬大	27"05
5	芹沢 美紅	東学大	27"40
6	國安 花菜子	群馬大	29"78

女子 400m 決勝

1	江口 琴美	埼玉大	56"79
2	平原 杏華	東学大	57"01
3	内山 成実	東学大	57"50
4	鬼塚 玲寧	埼玉大	57"72
5	高石 涼香	東京大	59"44
6	川崎 智恵	群馬大	63"07
	田邊 瞳	群馬大	DNS

女子 800m 決勝

1	卜部 蘭	東学大	2'08"72
2	高石 涼香	東京大	2'13"89
3	楠久 美香子	東学大	2'24"07
4	田嶋 里音	埼玉大	2'33"52
5	荒木 玲	東京大	2'39"17

女子 1500m 決勝

1	藤原 ゆか	東京大	5'09"63
2	和田 あすか	東学大	5'11"59
3	田嶋 里音	埼玉大	5'13"67
4	鈴木 優花	群馬大	5'16"56
5	齊藤 あや	群馬大	5'24"09
6	堀越 美菜	東京大	6'05"82
	西川 優衣	東学大	DNS

女子 3000m 決勝

1	深澤 里緒	東学大	10'44"72
2	蛭田 結衣	埼玉大	10'48"16
3	鈴木 優花	群馬大	10'48"79
4	藤原 ゆか	東京大	11'17"05
5	川崎 史奈	東学大	11'54"88

女子 4×100mR 決勝

1 埼玉大 野口一—中村一—江口一—小峰	46"79
2 東学大 澤田一—利藤一—高橋一—宇喜多	47"68
3 群馬大 鹿沼一—田邊一—飯野一—川崎	50"61

女子 走高跳 決勝

1 飯野 綾 群馬大	1m60
2 高橋 このか 東学大	1m60
3 大和 史織 群馬大	1m50
4 田中 彩乃 東学大	1m45

女子 三段跳 決勝

1 奥村 彩音 東学大	12m22
2 飯田 詩央 東学大	11m68
3 内山 咲良 東京大	11m43
4 飯野 綾 群馬大	11m07
早田 純菜 埼玉大	NM
大和 史織 群馬大	NM
田村 友希 群馬大	DNS
寺尾 千慧 東学大	DNS

女子 やり投 決勝

1 森西 清華 東学大	41m75
2 真屋 葉月 群馬大	30m19
3 田中 実久 群馬大	25m92
藤野 茜 東学大	DNS

総合得点

1位	東京学芸大学	61点
2位	埼玉大学	33点
3位	群馬大学	28点
4位	東京大学	18点

5. 自己記録更新者一覧**7/1 第42回国立四大学対校陸上競技大会**

100m	平木基人(3年)	11"21(+0.7)
100m	後藤裕瑛(4年)	11"36(+0.5)
100m	伊藤康裕(2年)	11"38(+0.7)

100m	菱川遼悟(4年)	11"42(+0.5)
100m	田口広太郎(3年)	11"58(+1.1)
200m	加藤正凌(3年)	23"44(+1.0)
200m	菱川遼悟(4年)	23"57(+1.0)
400m	小嶋健太郎(3年)	49"92
400m	長久将(4年)	50"28
400m	加藤正凌(3年)	51"62
1500m	村田博(1年)	5'05"87
400mH	寶田雅治(4年)	56"65
3000mSC	栗山一輝(2年)	9'50"93
3000mSC	古賀淳平(2年)	10'14"54
三段跳	原澤龍平(2年)	13m63(+0.1)
三段跳	赤塚智弥(2年)	13m45(+1.1)
三段跳	内山咲良(2年)	11m43(+1.4)
ハンマー投	加藤輝仁(4年)	27m60
やり投	八木澤光大(3年)	49m22

6. 2017年度 部内五傑

(順位 氏名 (学年) タイム 日付)

男子 100m

1 聲高健吾(1年)	10"83(+0.4)	7.1
2 河野太郎(4年)	10"96(+1.0)	5.7
3 井上昂(1年)	11"05(+0.4)	7.1
4 阿久津大貴(2年)	11"10(+1.1)	7.1
5 平木基人(3年)	11"21(+0.7)	7.1

男子 200m

1 聲高健吾(1年)	21"58(+1.7)	5.27
2 河野太郎(4年)	21"61(+0.6)	5.27
3 阿久津大貴(2年)	22"48(+1.5)	7.1
4 長久将(4年)	22"64(+1.0)	6.17
5 後藤裕瑛(4年)	22"95(-0.8)	6.4

男子 400m

1 河野太郎(4年)	49"85	4.8
2 小嶋健太郎(3年)	49"92	7.1
3 長久将(4年)	50"28	7.1
4 松田光陽(2年)	50"79	6.4
5 寶田雅治(4年)	51"20	5.26

男子 800m

1 坂口諒(3年)	1'55"63	4.8
2 小野康介(2年)	1'56"10	4.8
3 早川航平(4年)	1'57"45	6.3
4 妹背雄太(4年)	1'57"48	4.30
5 伊藤龍一郎(3年)	1'58"47	6.3

男子 1500m

1 近藤秀一(3年)	3'53"75	4.8
2 妹背雄太(4年)	3'59"68	4.8
3 渡部慎也(2年)	4'07"94	6.3
4 小野康介(2年)	4'09"10	3.19
5 杉本直之(2年)	4'14"77	6.3

男子 5000m

1 近藤秀一(3年)	14'43"64	6.17
2 松本啓岐(4年)	15'08"84	6.4
3 阿部飛雄馬(2年)	15'12"38	4.23
4 栗山一輝(2年)	15'17"27	6.4
5 妹背雄太(4年)	15'47"42	4.23

男子 10000m

1 近藤秀一(3年)	29'16"49	5.25
2 阿部飛雄馬(2年)	31'12"74	4.22
3 松本啓岐(4年)	31'21"69	4.22
4 田村和也(4年)	32'43"71	4.22
5 須藤克誉(4年)	34'11"89	3.26

男子 110mH

1 杉森康平(8年)	15"88(+1.6)	6.17
2 寶田雅治(4年)	15"91(+0.8)	6.17
3 村井輝(2年)	16"03(+1.3)	4.8
4 中島盛喜(4年)	16"61(+1.7)	5.7
5 中尾幸志郎(2年)	16"62(-1.8)	6.4

男子 400mH

1 松田光陽(2年)	56"58	7.1
2 寶田雅治(4年)	56"65	7.1
3 中尾幸四郎(2年)	60"08	6.4
4 今井樹宏(4年)	63"74	6.17

男子 3000mSC

1 阿部飛雄馬(2年)	9'50"14	7.1
2 栗山一輝(2年)	9'50"93	7.1
3 肱岡佑(3年)	9'52"18	3.25
4 妹背雄太(4年)	9'52"76	3.25
5 大庭帆貴(1年)	10'08"25	7.1

男子 5000mW

1 渡邊成陽(5年)	20'52"99	7.1
2 棟重賢治(4年)	21'08"55	6.17
3 堀江駿(3年)	21'49"77	6.17
4 千菊智也(1年)	22'51"42	7.1

男子 10000mW

1 堀江駿(3年)	44'39"77	5.27
2 棟重賢治(4年)	46'00"02	5.27

男子 4×100mR

1 阿久津(2)-聲高(1)-河野(4)-長久(4)	41"27	5.25
2 井上(1)-聲高(1)-河野(4)-竹井(D2)	41"43	7.1
3 井上(1)-阿久津(2)-影山(2)-渡辺(3)	42"19	6.17
4 影山(2)-田口(3)-河野(4)-長久(4)	42"47	4.8
5 影山(2)-平岡(4)-平木(3)-阿久津(2)	43"76	3.26

男子 4×400mR

1 小嶋(3)-河野(4)-松田(2)-長久(4)	3'19"22	5.27
2 小嶋(3)-河野(4)-松田(2)-長久(4)	3'21"14	7.1
3 松田(2)-長久(4)-伊藤(2)-加藤(3)	3'23"50	6.17
4 河野(4)-早川(4)-長久(4)-伊藤(2)	3'32"58	4.8

男子走幅跳

1 木下秀明(3年)	7m18(-1.5)	4.6
2 草野恒平(4年)	6m83(+1.4)	7.1
3 藤原暉(2年)	6m79(-0.6)	4.6
4 栗原怜也(1年)	6m76(-0.3)	7.1
5 村井輝(2年)	6m57(+0.6)	5.6

男子三段跳

1 木下秀明(3年)	14m88(-0.3)	5.27
2 平木基人(3年)	14m04(+0.9)	5.7

3 原澤龍平(2年)	13m63(+0.1)	7.1
4 毛利冬悟(3年)	13m59(+0.6)	3.18
5 赤塚智弥(2年)	13m45(+1.1)	7.1

男子走高跳

1 木下秀明(3年)	1m90	6.17
1 赤塚智弥(2年)	1m90	6.17
3 寶田雅治(4年)	1m65	3.18
4 村井輝(2年)	1m60	5.6

男子棒高跳

1 三宅功朔(2年)	4m90	6.17
2 寶田雅治(4年)	3m60	5.6
3 村井輝(2年)	3m30	5.6

男子砲丸投

1 加藤輝仁(4年)	11m21	6.17
2 土井雅人(4年)	10m81	6.17
3 佐竹俊哉(3年)	10m76	4.8
4 村井輝(2年)	9m54	5.6
5 山之内良太(4年)	9m29	6.17

男子円盤投

1 佐竹俊哉(3年)	32m33	6.17
2 土井雅人(4年)	30m46	4.8
3 山之内良太(4年)	29m93	6.17
4 八木澤光大(3年)	27m43	7.1
5 寶田雅治(4年)	23m86	3.19

男子やり投

1 八木澤光大(3年)	49m22	7.1
2 加藤輝仁(4年)	48m16	7.1
3 中村優太(1年)	43m46	7.1
4 石田駿平(1年)	42m69	6.17
5 寶田雅治(4年)	41m36	3.19

男子ハンマー投

1 加藤輝仁(4年)	27m60	7.1
------------	-------	-----

女子 100m

1 内山咲良(2年)	13"03(+1.0)	4.8
------------	-------------	-----

女子 400m

1 坪浦諒子(4年)	58"76	6.17
2 高石涼香(3年)	59"44	7.1

女子 800m

1 高石涼香(2年)	2'12"52	4.22
2 荒木玲(2年)	2'34"02	4.22

女子 1500m

1 高石涼香(3年)	4'47"83	3.26
2 藤原ゆか(3年)	5'07"87	6.3
3 荒木玲(3年)	5'21"41	3.26
4 堀越美菜(3年)	5'37"55	4.22

女子 3000m

1 高石涼香(3年)	10'27"91	6.17
2 藤原ゆか(3年)	11'11"57	6.17

女子 5000m

1 堀越美菜(3年)	21'09"97	3.18
------------	----------	------

女子 400mH

1 坪浦諒子(4年)	63"14	5.27
------------	-------	------

女子 4×400mR

1 堀越(3)-荒木(3)-藤原(3)-高石(3)	4'35"34	7.1
---------------------------	---------	-----

女子走幅跳

1 内山咲良(2年)	5m41(+1.8)	6.17
------------	------------	------

女子三段跳

1 内山咲良(2年)	11m43(+1.4)	7.1
------------	-------------	-----

7. 2017年度 東大記録更新者一覧

(種目 氏名 (学年) タイム 日付)

800m	高石涼香(3年)	2'12"56	4.22
10000m	近藤秀一(3年)	29'16"49	5.25
三段跳	内山咲良(2年)	11m43(+1.4)	7.1

8. 主務より

8.1 応援 OB・OG 紹介

応援 OB・OG 紹介

7/1(土)に大井ふ頭中央海浜公園陸上競技場で行われました、第42回国立四大学対校陸上競技大会兼第24回国立四大学対校女子陸上競技大会に際し、応援に駆け付けてくださいました OB・OG の方のご氏名をご卒業年順に報告いたします。(敬称略)

昭和54年卒	中谷敬二
昭和58年卒	八田秀雄
昭和63年卒	寺田秋夫
平成3年卒	小野満
平成13年卒	岡野浩行
平成17年卒	藤田靖浩
平成23年卒	近藤堯之
平成23年卒	斉藤瞬也
平成23年卒	園部竜也
平成23年卒	西田昂広
平成23年卒	渡邊拓也
平成27年卒	松本大翔
平成28年卒	郡健太
平成28年卒	小南直翔
平成29年卒	阿部龍太郎
平成29年卒	泉悠太
平成29年卒	鍵本直人
平成29年卒	加藤騎貴
平成29年卒	軽部智
平成29年卒	櫻井悠也
平成29年卒	戸田賢希
平成29年卒	原耕資
平成29年卒	福島洋佑

不安定な天候の中、足をお運びくださいましたこと、現役部員一同心より御礼申し上げます。

8.2 行事予定

今後の行事予定をお知らせいたします。

7.29(土)~7.30(日)	七大戦@知多、瑞穂
8.27(日)	一橋戦@国立
9.8(金)~9.10(日)	全日本 I.C. @福井
9.30(土)	京大戦@駒場
10.14(土)	箱根駅伝予選会@立川

8.3 連絡先

慶弔のご連絡は下記連絡先までお願い申し上げます。

総務委員長：斎藤誠二	
TEL	: 03-5370-9370
Mail	: Seiji_Saito@suntory.co.jp
学生主務：後藤裕瑛	
〒240-0046 神奈川県横浜市保土ヶ谷区仏向西	
22-3-914	
TEL	: 070-6573-6935
Mail	: shumu@utf.org
学生主務補：富原健太	
Mail	: utf.shumuh@gmail.com

部便り郵送不要の方は、お手数ですが学生主務補までご連絡下さい。

この部便りは陸上運動部ホームページ内の「OBOG 向け」からもご覧になれます。

URL : <http://www.utf.org>

学生主務 後藤裕瑛

部便りに関するご意見、ご感想は部便り主任の須藤までお送り下さい。

部便り主任 須藤克誉

(Mail: uttfbdyri2017@gmail.com)